

## 弟の蘇轍との間で交わされた詩文

蘇軾・蘇轍の兄弟は、一緒に暮らす機会は数えるほどしかなかったが、生涯仲の良い兄弟で、二人の間に交わされた詩文にはかけがえのない兄弟愛にあふれている。父、蘇洵の名付けた通りの正に、車の「軾」と「轍」の関係である。

☆一〇六一年、蘇軾が鳳翔府簽判せんぱん（高等事務官）として官吏の第一歩を踏み出した時が最初の別れ。蘇轍は老父の世話の為開封にとどまった。二十六歳

「辛丑十一月十九日既與子由別於鄭州西門之外馬上賦詩一篇寄之」（第十回講義）

☆一〇六一年、東坡が鳳翔府へ赴く道筋で、五年前、最初の上京の折に泊った澗池べんち（河南省澗池県）の寺を再び訪れた時、轍から当時を回想した詩が送られてきた。

「懷澗池寄子瞻兄」 蘇轍 これに東坡が律詩を和した。（第十回講義）

「和子由澗池懷舊」（第十回講義）

☆一〇六一年歳末、鳳翔府に在って歳暮に帰れない思いを子由に寄せた詩。

「歲晚三首」（餽歳・別歳・守歳） （第十回講義）

☆一〇六三年、鳳翔府在任中の名勝・古跡を詠った作。二十八歳の作

「和子由踏青」

☆一〇七一年、杭州在任中の作、蘇轍の長身を孔子になぞらえて詠った詩

「戲子由」

三十六歳の作

☆一〇七七年、徐州で轍と共に仲秋の月を見た。四十二歳の作。

「陽關詞 三首 仲秋月」

☆一〇七九年、徐州の知事から湖州の知事に転任して徐州を去るとき、人民から慕われていて、さかんにひきとめられるさまを、弟の轍へ書き送った五首の詩の第一首。四十四歳三月の作。

「罷徐州往南京馬上走筆寄子由五首 其一」（第十三回講義）

☆一〇七九年、朝政誹謗の科により捕らえられ、御史台に拘禁された時に死を覚悟して、獄中で二詩を作り子由に遣った。

「予以事繫御史臺獄，獄吏稍見侵，自度不能堪，死獄中，不得一別子由，

故作二詩授獄卒梁成，以遺子由，二首 其一」（第十三回講義）

☆一〇八三年、黄州に在って子由に送った詩。轍は四年前、兄の罪に坐して筠州（江西省高安県）の塩酒宮に左遷された。「初秋寄子由」 四十八歳の作。

以下、「戲子由」「陽關詞 三首 仲秋月」「初秋寄子由」三詩を紹介する。

戲子由

子由に戯れる 一〇七一年十二月 (七言古詩・中略二十句)

宛丘先生長如丘

宛丘先生 えんきゅう 長きこと丘の如く たけたか

宛丘學舎小如舟

宛丘學舎 小なること舟の如し わか

常時低頭誦經史

常時 頭を低れて た 經史を誦し

忽然缺伸屋打頭

忽然として けんしん 欠伸すれば おく 屋頭を打つ こうべ

斜風吹帷雨注面

斜風 しゃふう 帷を吹いて めん 雨面に注ぐ

先生不愧旁人羞

先生は愧じざるも ほうじん 旁人は羞ず は

：(二十句 略)：

文章小技安足程

文章は小技 しょうぎ 安んぞ程とするに足らん のり

先生別駕舊齊名

先生と別駕 べつが と 旧名 もと を齊しうせり ひと

如今衰老俱無用

如今 衰老して 俱に用うる無し

付與時人分重輕

時人に付与して 重輕を分かたしめん

【語釈】宛丘：陳州(河南省淮陽県)附近の丘陵。○經史：經書と歴史書。○忽然：にわかに。突然。○缺伸：あくびとのび。○面：かお。顔面。○文章：詩文。文芸。○程：基準。手本。○別駕：官職名。○付與：あたえる。わたす。○分重輕：どちらがすぐれているか。

【通釈】宛丘先生は丘のように背が高い。宛丘の學舎は舟のように小さい。いつも頭を下げて經典や史書を読み、フーツとあくびをすると、頭を天井に打ちつける。風が帳を吹き上げ、雨が顔にそそぐ。先生は平氣だが、まわりの者が恥ずかしくなる。

：(中略)：  
文学などは小手先の技で、手本にするほどでもないが、先生と私とは、昔は名を等しくしていた。しかし今となつては互いに年をとつてしまった。お互いの評価は世の中の人に任せよう。

蘇轍はずいぶん長身だったようだ。「丘」は孔子の名の「丘」にかけている。

(孔子は身長九尺六寸・一尺〓〇・二三メートル)

当時、蘇轍は陳州で。学官(教授)を勤めていた。蘇轍はかなり背の高い人物だったようだが、それをユーモアを交えて述べている。しかし、この詩からは蘇軾が蘇轍を弟として可愛がっていただけでなく、その文学的能力を高く評価していたことがわかる。弟をからかいながらも、思いやりと愛情にあふれる詩である。